

別記
第1号様式（第14条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 府 知 事	令和2年7月28日
住所（法人にあつては、主たる事務所の所在地） 東京都中央区京橋3-1-1 東京スクエアガーデン	氏名（法人にあつては、名称及び代表者の氏名） サントリープロダクツ株式会社 代表取締役社長 中村卓 代理人 宇治川工場 執行役員工場長 山本幸夫

環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	I S O 1 4 0 0 1
適 用 範 囲	清涼飲料水、乳飲料の製造
導 入 年 月 日	2006年12月9日
認 証 番 号	E M S 5 1 0 9 6 1
基 本 方 針	5項目を環境マネジメントシステム（以下EMS）の推進により実行：①水のサステナビリティの追求②生物多様性保全への取り組み③イノベティブな3Rによる資源の有効活用④全員参加による低炭素企業への挑戦⑤社会とのコミュニケーション
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	炭酸ガス排出量抑制：CO2原単位 前年実績69.4→目標77.6kgCO2/KL エネルギー効率の悪い大容量ペットラインを停止し、高効率ペットラインを新設するため、生産数量の減少と、新ライン試運転に伴うエネルギー使用量の増加により原単位は悪化すると推測した目標を設定。次年度より高効率ラインの稼働により原単位の良化をめざす。
目標を達成するための取組の内容	全生産ライン（瓶、大ペット、缶、小ペット）の稼働率向上による無駄なエネルギーの使用量を削減し、生産数量を増加させる。新ラインのスムーズな立ち上げにより、エネルギーの使用量を抑える。
目標を達成するための取組の進捗状況	各ライン慢性トラブルの抽出と対策案検討と実施。新ライン立ち上げを計画どおり進捗。
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	計画に沿って対策を実施していったが、新ラインの立ち上げ遅れによりエネルギー使用量の増加（前年比112%）、新ラインの初期流動による3か月間の50%稼働により生産数量が減少（前年比94%）し、原単位が予測以上に悪化した（目標77.6に対し実績83.1CO2/KL）。
事業活動に係る法令の遵守の状況	関係法規の遵守状況について1ヶ月に1回の確認を行っている。また、これまで違反及び行政当局からの指摘はなかった。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	評価・見直しの必要性については、1年に1回マネジメントレビューを実施している。 平成31年（令和元年）度は、現行の取組内容により一定の成果が見られたことから、令和2年度も同一のシステムにより運用予定。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。